

女性部便り

2018年18号

発行／部落解放同盟兵庫県連女性部

発行責任 部長 植村 あけみ

第63回全国女性集会に参加!!

部落解放第63回全国女性集会が、5月12～13日、和歌山県・和歌山県民文化会館を中心に開催されました。27都府県連、979人の女性が結集しました。兵庫県連からは111人が参加しました。



和歌山県連女性部の皆さん

オープニングセレモニーとして和歌山県連女性部が

水平社発祥の地として歌と紙芝居を披露しました。宣言の朗読に始まり、解放歌合唱のなか、荊冠旗が入場しました。議長には、和歌山県連と次回開催地の徳島県連の女性が選出され、その任を果たしました。その後、主催者を代表して組坂委員長より挨拶がありました。地元歓迎あいさつ、来賓からのあいさつを受けた後、石川一雄さん・早智子さんから狭山再審闘争の現状そして今年79歳を迎える石川さんから自分も最後まで頑張るが、皆さんの協力そして運動の盛り上げを訴えられました。さらに日々の高裁前での訴え行動、そして5月23日には東京で狭山中央市民集会があるのでぜひ結集してほしいと訴えられました。



狭山の現状を訴える石川さん

経過報告は、植村あけみ中央女性運動副部長よりなされました。基調提案は山崎鈴子中央女性運動部長より、今後の女性部の活動の方向や部落女性また他のマイノリティ女性の現状や協働についてわかりやすく提案されました。

記念講演は奥田均近畿大学人権問題研究所教授より「新たな時代の始まり～部落差別解消推進法を武器に～」と題して行われました。「部落差別解消推進法」の実現に向けた具体的な取り組みや同和対策特別措置法からの歴史も含み詳しく話をされました。今後しっかりと取り組みを進めていくことが大切な課題であることを胸に刻みました。

その後スローガン・集会宣言を採択したのち、1日目の日程を終えました。



発表する杉元常任委員

2日目は、朝9時から7分科会に分かれて熱心な討議を15時まで行いました。私たち兵庫県連は第6分科会「女性差別撤廃にむけた取り組みと反差別協働闘争の課題（女性差別について考えよう）」にて広島県連と共に報告しました。兵庫の報告は「三田での解放運動と課題～三田婦人のつどいや文化祭の取り組みをどうして～」です。『婦人』という言葉へのこだわりや文化祭で取り組んでいる朗読劇や紙芝居など多彩な取り組みを報告しました。また兵庫県連女性部が「男女平等社会推進本部」設置に向けて今闘いを始めたことそして長いスパンの中で学習と実践を積み重ねていきたいと決意を語りました。報告の後は三田支協・婦人部のみなさんによる朗読劇を披露しました。本分科会には17都府県連から93人が参加し熱心な討議を行いました。また分科会の仲間からカンパ36,260円が集まりました。



本紹介



「からっぽの冷蔵庫～見えない日本の子どもの貧困～」

NPO 法人フードバンク山梨 代表 米山恵子さん

新聞の本紹介で何とも衝撃的な題名の本でした。ここ何年も子どもの貧困については私達上の島支部でも教育・保育の課題でもあり、昨年1月開催された「第8回教育研究集会」でも今、日本の抱える一つの課題として挙げられました。しかし、この本を読んで私たちはもっと深刻に子どもの貧困について考えなくてはならないと感じました。この本の著者の米山さんはフードバンク山梨の活動を通じて子どもの貧困と向き合ってこられました。この本の冒頭米山さんは「弟や妹にご飯を食べさせるために自分はあまり食べない」この言葉から戦時中の混乱を生き抜こうとした兄妹の物語『火垂るの墓』を思い出した。しかしこれは2016年フードバンク山梨が連携する学校の教師に行った調査の記述回答です』から始まります。1億総中流が冷めやらぬ、そして飽食日本でこんな現実が今もあるのかとあっという間に読み終えました。途中何度も泣きそうになりながら…。つい最近まで子どもの貧困率は10人に1人といわれていましたが、今や13.1%実に7人に1人の子どもが貧困の中にあえいでいるのです。そしてそれは底が見えない状況なのです。

この本の題名となった事例です。利用者の返信で、何らかの事情で孫と2人暮らす祖母は、フードバンク山梨と出会うまでは、わずかな年金で暮らし、時には2人で1日1丁の豆腐を食べるのが精一杯のことがありました。そんな日は体の大きな孫は空腹で眠れず、夜中からっぽの冷蔵庫の前に立ちすくむのです。そんな孫の姿を見た祖母の思い、そしてどうしてもあげられない祖母の悔しき悲しきが伝わってきます。そのような現実の中フードバンク山梨からの食糧支援は2人の命綱になっているのです。このようなことのある一方では、食べ物的高级志向が蔓延したり、意味のない大食いがテレビなどで放映されています。個人の自由だからとほっておいていいのでしょうか？つい先日2月3日にはまるかぶりの巻きずしが大量に売れ残り廃棄する映像がテレビや新聞で流されました。本当にこんなことで日本は大丈夫でしょうか？

私はこの本を読んでからうちの冷蔵庫を開けてみました。高級品は入っていませんが、食べ忘れている物や今いらぬものがありました。そして「この冷蔵庫の中が空っぽならどんなに不安だろう」と改めて考えさせられました。

最後に本の中でマザー・テレサが来日した時の事が紹介されていました。マザー・テレサが講演でインドの現状を話し、聞いたミッションスクールの生徒はすぐにでもインドに行って支援をしたいとマザー・テレサに申し出ます。すると彼女は「日本人はインドの事よりも、日本の中で貧しい人々への配慮を優先して考えるべきです。愛はまず手近かなところから始まります。」と…。私たちは、私たちの周りで食べることに、いえ生きることに困っている人がいないか、そして私達になにができるのか考え、小さくても一歩を踏み出す勇気が今求められているのではないのでしょうか。

(文責 川面千鶴江)